

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月27日(水)

《見つける、そして見る目》

さあ、今日の福音（マタイ 13・44-46）で一番大切な言葉と思われるものは何でしょうか。皆様思い浮かぶ言葉をおっしゃって下さい。主要な基本的な言葉は“見つける”という言葉です。これが出来なかったら何も出来ません。しかしこの言葉はあまり意識しないで過ぎてしまいます。

宝物が宝物としてその光を輝かせるには、先ず、宝物を宝物として“見る目”が必要です。それがなかったら何も出来ません。「これは宝物だよ」と言われても、自分が宝物に見えなければ自分の持ち物を売るはずがありません。すっかり売り払うはずがありません。何か真理とか、本当に私たちにとって一番大事なものが前に見えたら、それ以上それ以外の物は何もいらないでしょう。

例えば、永遠の命を宝物だとしましょう。これが本当に「永遠の命だよ」と言われても「ええ、まさか！」と言ってしまったら、目の前に「永遠の命」があっても何の意味もないことになってしまいます。ですから“見つける”こと“見る目”が大事になるわけです。

“見つけた”人が、自分の持っているものを全部売り払ってそれを買ったという言葉は、実際に私たちが信仰の生活をしながらも、何故喜びがないのか。いつもある意味で色々な物に未練があって捨てられずに縛られているのかということにつながり、皆様が宝物をはっきり見つけていない証拠になるかもしれません。だから比較してしまうのです。「これがいいか、これがいいか」と、ためらいと迷いがいつもあるのです。

今日の福音は「天の国はこのようにたとえられる。ある人が畑に行って宝物を見つけ、そのままそれを隠して帰って、自分が持っているもの全部売ったお金でその畑を買う。」という内容です。そのくらい見つけた物に対する確信があるわけです。私たちにもそれが何よりも必要ではないかと思います。

もう一度申し上げます。宝物が宝物としてその価値を発揮するためには、宝物として見られなくてははいけません。皆様の宝物は皆様の中でどのように輝いているか考えてみましょう。

ありがとうございました。